

第2回「トイレ設置数の基準と適用のあり方に関する協議会」 議事概要

日時：令和7年12月19日（金）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎2号館地下1階第2会議室A・B（ハイブリッド開催）

議事：（1）第1回協議会におけるご意見等について

（2）トイレ待ち解消のための設計試行について

・小林委員

（3）器具とデジタル技術を融合した商品のご紹介について

・TOTO株式会社

（4）IoTを活用した利用者に対する働きかけ等について

・株式会社バカン

（5）ガイドライン骨子案について

【議事概要】

（座長より挨拶）

議事（1）第1回協議会におけるご意見等について

（事務局より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- 男女の待ち時間の平準化を進める一方で、絶対時間としての待ち時間をどのように設定するのかについても考える必要があるのではないか。

議事（2）トイレ待ち解消のための設計試行について

（小林委員より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- 商業施設における各階のトイレの利用者数は、婦人服や紳士服、レストラン等のフロアの種類によって、大きく異なることが伺える。ガイドラインでは、こうした実態があることについて、具体例を用いて示した方がよいのではないか。
- トイレの利用に関する実態調査の促進も必要であると考える。ガイドラインでは、実態調査の方法についても示せるとよいのではないか。
- トイレを設計する際には、男女の利用者の意見を聞くことや日頃から利用する従業員の意見を聞くことも必要ではないか。
- ガイドラインでは、良い事例だけでなく、悪い事例も紹介した方がよいのではないか。
- 時間帯によって、トイレの利用者数が大きく異なる場合、どの時間帯を目安にどのくらいの利用者数をさばけるようにすべきなのかについて決めるのは難しい。
- 男女の待ち時間を平準化する際に、今までよりも男性が長く待つような基準になって

もよいのかということについては、考える必要があるのではないか。

- 各施設管理者におけるトイレの利用に関するデータが蓄積し共有されていくことが望ましい。

議事（3）器具とデジタル技術を融合した商品のご紹介について

（ＴＯＴＯ株式会社より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- 特になし

議事（4）IoTを活用した利用者に対する働きかけ等について

（株式会社バカンより資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- トイレ探しに苦労した経験がある。今後、商店街等と連携を通じて、トイレの位置が分かるサービスが広がればよいと感じた。トイレが利用できることが分かれば、そのトイレがある施設を利用しようという気にもなると考える。
- トイレの混雑状況がQRコードを通じて簡単に確認できるのは良いと感じた。今後も複雑ではないシステムで開発されることが望ましいと考える。
- 女性より男性のほうがお腹が弱いという記事をみた。男性のほうが外出中に排便をすることが多いと考えられる。この点はガイドラインでも考慮すべきではないか。
- トイレの利用者に対して行動変容を促している点は、今後の施策の参考になるのではないか。
- イベント時の周辺トイレの位置をデジタル地図にマッピングしたことがある。トイレの利用者の動向を把握することができ、有効な取組であったと考えている。

議事（5）ガイドライン骨子案について

（事務局より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- ガイドラインの対象者を明確にするべきではないか。対象者に応じてどこが関係しているのか明確にした方がよいと考える。
- 施設を利用する際に長い待ち時間が発生するか否かなどによって、トイレの利用率は大きく異なる。単体のトイレに着目するだけでなく、施設内におけるトイレの違いや、施設毎のトイレの違いに着目した検討も必要ではないか。
- 施設自体の利用のされ方も変わっている。例えば、デパートでは、昔は全てのフロアを家族で回るような利用がなされていたが、今は特定のフロアのみを回るという利用がなされている。これにより、特定のフロアのトイレに利用が集中するということもある。
- 婦人服のフロアのトイレが綺麗だから利用するという男性もいる。（単に近くのトイレを利用するのではなく、）綺麗なトイレを目的とした利用のように、目的的にトイレが利

用される場合もある。

- トイレの面積について、全てのフロアで均一にするのではなく、フロアに応じて変えるということも考える必要があるのではないか。また、そもそも局所的に利用が集中する場合があるという実態について、設計者が把握する必要があるのではないか。
- 空いているトイレに利用者を誘導する場合でも、空いているトイレに移動するまでの時間などの情報を合わせて提供する必要があるのではないか。
- ガイドラインは、男女別トイレを前提とするものの、障害のある方や性的マイノリティの方に対する取組についても触れていただきたい。
- 全て男女共用トイレとしている海外の事例があること等を踏まえ、今後は、先進的な事例や斬新な事例についても紹介することを検討していただきたい。
- 新設・改修を見据えるとなると、足元の状況のみで考えるのではなく、中長期的な視点で考える必要があることを強調したほうがよいのではないか。
- 女性活躍に取り組んでいる企業に対しては、公共調達等の際に優遇措置が講じられている。本件についても、同じような仕組みでインセンティブが検討できないか。
- トイレの利用に関する実態調査を実施し、調査結果を公表した場合に補助金をもらえるような仕組みがあるとよいのではないか。
- トイレの利用に関する実態調査について、改修の際には利用実態を調査することができるが、新設の際にはどのようにすればよいのか。
- 鉄道駅の朝のラッシュ時におけるトイレの混雑については、周辺施設がまだ開いていないことも影響していると考える。周辺施設に対してトイレを利用できるようにしてほしいと働きかけをする際に、一定の補助金があれば働きかけやすくなるのではないか。
- トイレの利用に関するデータを収集し、体系的に整理するのは重要である。一方で、データを公表するための秘匿化等には、一定の時間と費用が必要となるため、そのための環境が整備されればよいと考える。
- トイレの待ち行列の位置は、トイレの混雑に大きな影響がある。待ち行列の位置と個室の距離が遠いと、それだけで入れ替わりに多くの時間を要することになる。ガイドラインでは、トイレの待ち行列の位置についても言及していただきたい。
- トイレの待ち行列の位置は重要である。待ち行列の位置の好事例やIoTを利用した空き情報の提供の好事例を示すことにより、施設管理者等に対してその重要性を伝えるべきではないか。
- トイレは水回りであり、給水や排水等の設備を考慮すると簡単に設置数を増やすことはできないことについて、ガイドラインに示した方がよいのではないか。
- 絶対時間としての待ち時間について、いくつかの水準を設定して、それぞれどのくらいの面積が必要になるのかということを示すと、合理的な水準が分かり、合意形成が図りやすくなるのではないか。

以上